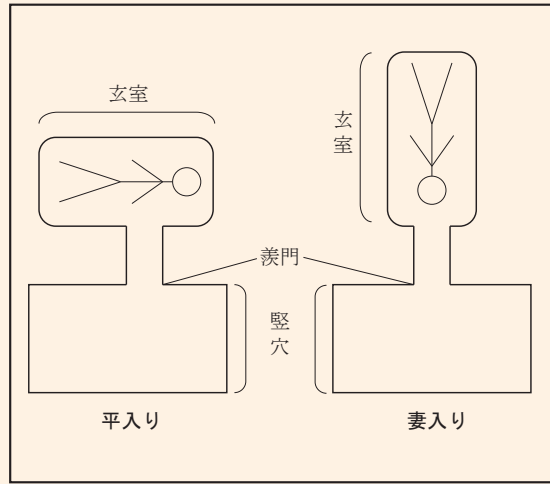


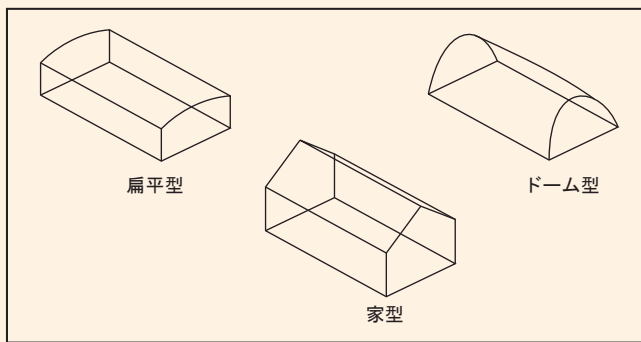
## 1、地下式横穴墓の種類は？

地下式横穴墓では、遺体を安置する玄室(げんしつ)をさまざま用語で表現します。右の図のとおり、羨門(せんもん)から縦に長い規格を**妻入り(つまいり)**と呼び、羨門から横に長い規格を**平入り(ひらいり)**といいます。また、玄室の天井も大きく3種類の規格があります。一般的に多くみられるのは、天井を丸く掘った**ドーム型**で、その他に天井がやや水平に掘られている**扁平型(へんぺいがた)**、家の屋根を模した**家型(いえがた)**があります。

また、遺体を安置する際に、鉄製の武具や農具、装身具(そうしんぐ)と呼ばれる貝製の腕輪や首飾りを遺体の傍らにお供えしたりします。このようなお供え物を考古学では副葬品(ふくそうひん)と呼んでいます。



地下式横穴墓平面図



玄室立体図



23号人骨・副葬品出土写真

表1 調査成果一覧

調査	No.	玄室構造	玄室内		性別
			副葬品	人骨	
県営事業	1	・妻入り ・扁平型	とうす 刀子1点	有り	女性
県営事業	20	・妻入り ・扁平型	刀子1点 貝釧2点	無し ※ただし全身が粉状で確認。	
不時発見	21	・平入り ・ドーム型		有り	女性 2体
不時発見	22	・平入り ・家型	鉄剣1点	有り	男性
県営事業	23	・妻入り ・家型	鉄刀1点 鉄剣1点 矢じり1点 刀子1点	有り	女性

## 2、発掘調査の成果は？

今回実施した飯隈遺跡群の発掘調査では、前号でもお話したとおり、地下式横穴墓計5基の発掘調査を行いました。発掘調査の結果は、左の表1のとおりになります。また、飯隈遺跡群の地下式横穴墓の番号は、平成23年度の確認調査で発見された20基と、今年新たに発見された3基を加えた番号になります。

調査の成果をひも解いていきますと、さまざまなことがわかってきました。まず玄室構造については、妻入りと平入りが同じ場所に作られていて、天井の規格は平入りに家型が用いられていることがわかります。副葬品は、21号をのぞくお墓にお供えされていて、主に鉄製の道具や武器が多いのが特徴です。わずかですが、貝釧(かいくしろ)といった貝製の腕輪を装着した人も葬られています。人骨は、火山灰土に触れると溶けてしまう性質がありますが、地下式横穴墓の玄室は地下深くに設けられているうえ、高湿度に保たれた密閉空間であるため、人骨が良好に残るようです。最後に人骨の性別は、現時点では女性が多く葬られています。また、同じ墓に2名の人物が葬られている墓もあります。

それでは次号③で調査の成果からみえる飯隈遺跡群をご紹介します。

大崎町教育委員会 大野泰輔